

問 加齢性難聴の補聴器購入に補助を

答 幅広い年代への支援を考えている



おおなみえこ 議員
大 名 美 恵 子

問 先の6月議会に本件に関する陳情をされた村内耳鼻科医師の説明は大変意義深く、これを機会に補助制度を創設すべき。傍聴された受け止めはどうか。

答 高齢者の難聴には早い段階での介入が必要。難聴は日常会話に支障を来し、家族や社会からの孤立化につながる。認知症を進める危険因子の一つであることを再認識した。適切な補聴器導入でコミュニケーションが活性化し、生活の質の向上、認知機能の低下抑制につながる。国や県、他の自治体

の動向を注視しつつ、専門家など関係者の意見も聞きながら、効果的な事業実施に向けた検討をしていく。

問 現在の取り組みや新たな補助制度の導入時期や対象年齢などを問う。

答 令和6年度事業実施に向けて、他市町村の状況確認や専門家、医療機関などの調整を進めている。難聴が及ぼす影響を考慮し、加齢性難聴の方だけでなく幅広い年代への支援を考えている。



補聴器の装着でコミュニケーションが活性化

問 村総合体育館等にエアコンを

答 令和6年度設計、7年度に工事



公明党
おかざき さとる 議員
岡 崎 悟

問 コミュニティセンター多目的ホールにエアコンが設置され、暑い夏、快適なスポーツを体感した利用者から、村総合体育館等にエアコン設置を求める声をいただいた。総合体育館や各小中学校体育館へのエアコン設置は、熱中症対策として重要な取り組みと考える。村の考えを伺う。

答 総合体育館のメインコート等での空調設備設置は、熱中症対策の必要性から、空調方式等の検討を進めてきた。今後は、令和6年度に空調方式の決定及び設計を行い、令和7

年度に設置工事を行う方向で関係部署と調整を進めている。また、小中学校体育館においても熱中症対策から、空調設備の設置は有効と考える。一方で、空調設備の設置を検討するにあたり、学校の状況に応じた空調の仕様、老朽化した体育館の改修、設置後のランニングコストなど課題があることから、実情の確認をはじめ施設の調査を図り、情報の収集と暑さ対策に取り組みたい。



体育館に空調設備を